

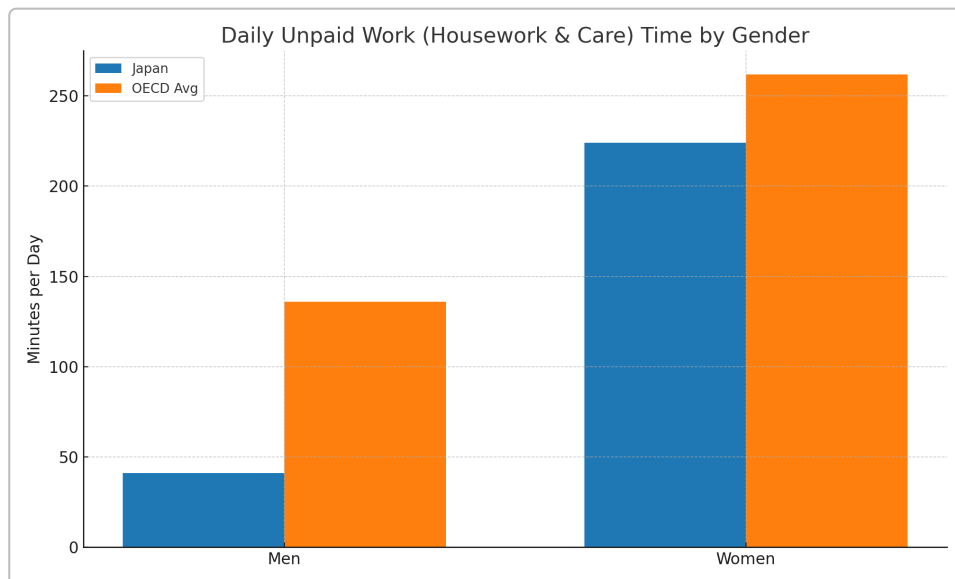
日本における家事・ケア労働と女性のキャリア・地位への影響

はじめに

日本社会では、女性が家事や育児・介護といった無償のケア労働に費やす時間が男性よりはるかに長いことが指摘されています。本レポートでは、(1) 女性の家事・無償ケア労働時間が男性に比べて長い現状を示すデータ、(2) その結果として女性のキャリア形成や労働市場への参加がどのように阻害されているかを示す調査・文献、(3) 育児・介護などのケアスキルの社会的評価の低さと、それが女性の社会的地位や賃金格差にどう関係しているかを分析した資料、これら3点について政府統計や学術研究、シンクタンクの報告を基に整理します。

女性の家事・無償ケア労働時間の男女差

日本における無償労働（家事・育児・介護など）の時間には顕著な男女差があります。総務省「社会生活基本調査」（2021年）の結果によると、無償労働時間の1日あたり平均は男性が**1時間19分**に対し女性は**3時間56分**で、その差は**2時間37分**にもなります^①。つまり女性は男性の約3倍の時間を無償の家事・ケアに費やしていることになります。同調査では2016年から2021年にかけて女性の無償労働時間はやや減少したものの依然として男性との差は大きいままです^②。



日本の男女における1日平均の無償労働（家事・ケア）時間（分）。日本では女性（青色）が男性（青色）より大幅に長く、OECD平均（オレンジ色）と比べても男女差が突出している。^③^④

国際比較データからも、日本の男女間の無償労働時間格差は際立っています。OECDがまとめた2020年の統計によれば、15～64歳層の**日本人男性の無償労働時間は1日41分**で比較国中最も短く、女性は**224分**（3時間44分）と男性の約5.5倍に達しています^③。この男女比5.5倍という開き具合は、調査対象国の中で日本が最大であり、次いで韓国が4.4倍、イタリアが2.3倍と報告されています^③。OECD平均では女性262分、男性136分（女性の方が約2倍）であるのに対し、日本では女性の無償労働が男性に極端に偏っていることが分かります。

す³。また内閣府の推計によれば、日本の女性が家庭で無償提供している家事・ケア労働の経済価値は年間**111兆円**にも及び、これは日本のGDPの約5分の1に相当します⁵。一方、男性の無償労働の価値は約32兆円と女性の3分の1以下であり⁶、この膨大な無償労働が主に女性によって担われている現状が統計的にも裏付けられています。

家事・ケア負担が女性のキャリア形成・就労に与える影響

女性の家事・育児負担が大きいことは、女性のキャリア形成や労働市場への参加に大きな影響を及ぼしています。政府も「女性活躍」を重要課題に掲げていますが、**家事負担の片寄りがありに大きいと女性が社会参加できる範囲には限界がある**と指摘されています⁷。実際、日本では出産や育児期に多くの女性が仕事を中断・離脱したり、正規雇用から非正規・パート勤務へ切り替えるケースが多く見られます。このため、女性の就業率を年齢別に見ると20代後半でピークに達した後、30代でいったん低下し、40代で再び上昇するいわゆる「M字カーブ」を描いてきました⁸。例えば女性の就業率は25～29歳で84.8%前後と高水準に達しますが、子育て期にあたる35～39歳で77.0%まで落ち込み、その後また上昇に転じる傾向があります⁸。これは出産前後に仕事を辞める女性が多かったためですが、近年は改善傾向にあります。

厚生労働省の統計によれば、第1子出産前に就業していた女性の**約7割が第1子出産後も就業を継続**するようになり、継続就業率は過去数十年で大きく上昇しました⁹。実際、第一子出産前後の妻の就業継続率は、1985～89年に第1子を出産した世代では27%程度でしたが、2015～19年に第1子を出産した世代では約70%近くにまで改善しています¹⁰。これは育児休業制度の整備など企業の両立支援策拡充により、特に正規職員の継続就業が進んだことが背景にあります⁹。しかし一方で、**非正規雇用のまま出産を迎えた女性の継続就業率は依然低水準**であり⁹、妊娠・出産を機に離職した理由として「仕事と育児の両立の難しさ」を挙げる女性が依然4割以上いるという調査もあります¹¹。

さらに、就業を継続できた場合でも、その後の働き方に制約が生じるケースが多いです。育児期の女性は短時間勤務やパートタイムへの転換を余儀なくされることが多く、結果として**30代以降の女性では非正規雇用（パート・アルバイト等）の比率が高まる**傾向があります⁸。上述のM字カーブに見られるように、25～29歳では女性就業者の約60%が正規職に就いていたものの、育児期にあたる年代では正規職割合が減少し、代わりにパートなどの割合が増加しています⁸。このことは、長時間労働が常態化しがちな日本の働き方の中で、家事・育児の時間を確保するために女性がキャリア上の選択肢を狭めざるを得ない状況を示しています。実際、男性の家事・育児時間が極端に短い国ほど女性の有償労働時間が低い傾向があり、日本はその典型例となっています¹²。**男性の協力不足や長時間労働の風土は、女性の就業継続やキャリアアップの大きな妨げ**となっているのです¹³⁷。

ケアスキルの社会的評価の低さと女性の地位・賃金格差への影響

家事・育児・介護といったケアスキルは社会的・経済的に十分な評価を受けていないと指摘されます。この「見えにくい」労働への評価の低さが、女性の社会的地位や男女の賃金格差に影響を及ぼしています。例えば、内閣府の報告書では家庭での無償労働の価値を試算していますが、女性の無償労働を仮に賃金換算して平均給与に上乗せした場合、**男女の賃金格差はほぼ解消する**という分析結果が示されています¹⁴。逆に言えば、現在の男女間の賃金格差の一因は、女性が担う無償労働が経済的報酬や評価を伴っていないことにあるといえます。また、経済学者からも「日本における女性の賃金水準の低さが、過去20年の賃金停滞の大きな原因の一つ」と指摘されており¹⁵、女性が低賃金にとどまりがちな背景には、家事・ケア役割に追いやられることでキャリア形成や高賃金職への参画が制限されてきたことが挙げられます。

さらに**ケア関連職種の賃金水準の低さ**も問題です。保育士や介護職員など、ケアスキルを職業として提供する仕事は女性が多く従事していますが、その賃金は全産業平均と比べても低く抑えられがちです。ILO（国際労働機関）の分析では、**保育労働者の賃金水準は女性労働者の平均賃金よりも低く、それが男女の賃金格差を拡大させる要因になっている**と指摘されています¹⁶。こうした「ケア労働の低賃金構造」は、ケアに携わ

ることの社会的価値が正当に評価・報酬付けされていない表れであり、その結果としてケア労働に従事する女性の経済的地位が低くなりやすい状況を生んでいます。

社会的地位の面でも、無償の家事・育児に多くの時間を割くことは女性の公的な活躍機会を制約します。例えば管理職や意思決定層への女性の参画が進まない一因として、長時間の無償ケア労働が阻害要因になっていることが度々指摘されています。世界経済フォーラム(WEF)の「グローバル・ジェンダー・ギャップ報告2022」でも、日本は経済分野の男女格差が大きく（男女間賃金格差は約24%：男性が女性より24%高い）※、総合順位が146か国中116位と低迷しています¹⁷。このようなジェンダー格差の背景には、**ケア労働に費やす時間の偏りとその社会的低評価が女性のキャリア機会と収入機会を奪っている構造**があると考えられます。

※賃金格差24%は男女の中央値比較での差。¹⁷ 参照。

おわりに

日本における家事・ケア労働の現状を見ると、女性が担う無償労働の時間と負担は依然として大きく、これが女性の労働参加やキャリア形成に影を落としてきました。近年は育児休業制度の拡充や働き方改革により状況は改善しつつあるものの、依然として多くの女性が出産・育児期にキャリア上のハンデを負っています。また、ケア労働やスキルの低い社会的評価は、女性が従事する仕事の賃金水準や社会的地位の低さに直結し、男女間の経済的不平等をもたらしています。今後、男女が家事・ケアをより公平に分担し、ケアスキル自体の価値を高めていくことは、女性の活躍推進とジェンダー平等の実現に不可欠であると言えるでしょう。

参考文献・データ出典： 政府統計ポータル（総務省「社会生活基本調査」¹ 等）、内閣府男女共同参画白書・統計³、厚生労働省資料⁹⁸、国立社会保障・人口問題研究所資料¹⁸、ILO報告¹⁶、NLI総合研究所・内閣府試算⁵¹⁴、その他学術研究¹⁹ 等。

¹ ² 結果の概要

<https://www.stat.go.jp/data/shakai/2021/pdf/gaiyoub.pdf>

³ コラム1 生活時間の国際比較 | 内閣府男女共同参画局

https://www.gender.go.jp/about_danjo/whitepaper/r02/zentai/html/column/clm_01.html

⁴ ⁵ ⁶ Japanese Women Are Unpaid for \$761 Billion Worth of Housework | TIME

¹⁴ ¹⁵ <https://time.com/6310501/japan-women-unpaid-labor-equality/>

⁷ Wives Do Seven Times As Much Housework As Husbands in Japan | Nippon.com

<https://www.nippon.com/en/japan-data/h00546/wives-do-seven-times-as-much-housework-as-husbands-in-japan.html>

⁸ ⁹ ¹⁰ mhlw.go.jp

<https://www.mhlw.go.jp/content/11901000/001101627.pdf>

¹¹ [PDF] 育児・介護休業法の改正について - 厚生労働省

<https://www.mhlw.go.jp/content/11900000/000851662.pdf>

¹² ¹³ 第一部 問題提起（1）男女の就労データからみる有効な企業の子育て支援

<https://www.jri.co.jp/file/report/jrireview/pdf/14842.pdf>

¹⁶ [PDF] The unpaid care work - paid work connection

https://www.ilo.org/sites/default/files/wcmsp5/groups/public/@dgreports/@integration/documents/publication/wcms_119142.pdf

- 17 **What is the 'unexplained wage gap' and how can we close it?**
<https://www.weforum.org/stories/2023/11/gender-wage-gap-japan/>
- 18 **<303130355F8ED089EF95DB8FE18CA48B865F8179959F9363817A5F504B2E736D64>**
<https://www.ipss.go.jp/syoushika/bunken/data/pdf/sh19040204.pdf>
- 19 **COVID-19 and the employment gender gap in Japan - PMC**
<https://pmc.ncbi.nlm.nih.gov/articles/PMC9995392/>